

授業科目名	観光交通論	担当教員	野津 直樹
必修の区分	選択		
単位数	2 単位		
授業の方法	講義		
開講年次	1 年 第3クォーター		
講義内容	観光について考える際、交通は必要不可欠な要素のひとつである。本講義では、現代の我々にとって馴染み深い観光の成立に、交通の発展がどのように関わってきたのか、世界・日本・但馬地域それぞれの歴史に触れながら概説する。その上で、現在の但馬地域を観光するにあたって人々が利用することのできる交通手段の現状を詳しくまとめ、その強みや利点を知るとともに、課題と改善策についても検討し、履修者一人ひとりが自分なりの意見を自らの言葉でまとめていく。		
到達目標	・観光と交通の関係について、その歴史を踏まえて説明することができる。 ・但馬地域を訪れる観光者がどのような交通手段を利用できるか説明できる。 ・但馬地域の観光交通が抱える課題を知り、改善案を自らの言葉で表現できる。		
授業計画	1. オリエンテーション ～観光とは何か～ 2. 交通の起源と古代史 3. 近代的観光の成立と交通 4. 世界の交通史と観光 5. 日本の交通史と観光 6. 但馬地域の交通史と観光 7. 但馬地域の地理と観光資源 8. モータリゼーションの進展と交通格差 9. 持続可能な地域づくりと観光 10. 地域公共交通の今後と観光 ～交通権と交通税の可能性～ 11. 交通の未来と観光の未来 ～自動運転、宇宙観光の進展～ 12. これまでの振り返りとまとめ（小テスト）		
事前・事後学習	授業内容に沿ったテーマについて、自ら調べ、考えたことをミニレポートにまとめ、提出すること（ミニレポート課題は全5回を予定している）。		
テキスト	特に指定しない。資料は授業内で必要に応じて適宜配付する。		
参考文献	適宜紹介する。		
成績評価の基準	授業への主体的な参加（55%）、ミニレポートの提出（25%）、授業内小テストの結果（20%）により評価する。		

履修上の注意 履修要件	履修希望者が 50 名を超過した場合のみ、初回講義の出席状況やリフレクション・カード、ミニレポート等の提出状況を基に、履修者の選抜を実施することがある。
実践的教育	観光分野の実務経験を持つ教員が、その実務経験を生かして教授することから、実践的教育に該当する。
備考欄	「持続可能な地域づくりと観光」単元においてゲストスピーカーを招聘予定。